漢法苞徳塾資料	№. 550
区分	治療論・積聚
タイトル	**積聚に関連して**
著者	八木素萌
作成日	2002.01.27

ご承知のように、『難経』は「積聚」について、極めて重要なことを記述しております。腹部で触診できる「痞梗」に「移動して場所が定まらない陽性のもの（腑)」と「場所的に固定していて特有の型を触知できる陰性のもの（臓)」の２種類があることを述べています。「５２難」「５３難」「５４難」と「積」に関連することを記述したのち、「５５難」では

「積者陰気也、聚者陽気也……故積者、五蔵所生、聚者、六府所成……」
（積ハ陰気ナリ、聚ハ陽気ナリ……故に積ハ五蔵ノ生ズル所・聚ハ六府ノ成ル所……）

と記述し、「積」の治療を組み立てる為の基礎的な認識を述べております。

別紙の表は「５６難」の記述を表にしたもので、病因・伝変・病候・腹証などです。

『霊枢』百病始生第 66 には「積」の成因を

「是故虚邪之中人也・始于皮膚・皮膚緩則腠理開・開則邪従毛髪入・入則抵深・深則毛髪立・毛髪立則淅然・故皮膚痛・
留而不去・則伝舎于絡脈・在絡之時・痛于肌肉・其痛之時息・大経乃代・
留而不去・伝舎于経・在経之時・洒淅喜驚〈外則悪寒・内則善驚〉・
留而不去・伝舎于輸・在輸之時・六経不通四肢・則肢節痛・腰脊乃強・
留而不去・伝舎于伏衝之脈・在伏衝之時・体重身痛・
留而不去・伝舎于腸胃・在腸胃之時・賁響腹脹・多寒則腸鳴飧泄・食不化・多熱則溏出糜・
留而不去・伝舎于腸胃之外・募原之間・留著于脈・稽留而不去・息而成積。……
邪気淫泆・不可勝論。……
起居不節・用力過度・則絡脈傷・陽絡傷則血外溢・血外溢則衄血・陰絡傷則血内溢・血内溢則後血・腸胃之絡傷・則血溢于腸外・腸外有寒・汁沫与血相搏・則并合凝聚不得散・而積成矣。……」

（是故ニ虚邪ノ人に中ルヤ皮膚ヨリ始マリ・皮膚緩ム則ハ腠理開ク・開ク則ハ邪毛髪ヨリ入ル・入ル則ハ深ク抵ル・深キ則ハ邪毛髪立ツ・毛髪立テバ淅然トス・故ニ皮膚痛ム・留マリテ去ラ不レバ・絡脈ニ伝舎ス・絡ニ在ルノ時ニハ・肌肉痛ム・其ノ痛ハ時ニ息ミ・大経乃代ス・留マリテ去ラ不レバ・経ニ伝舎ス・経ニ在ル時ハ・洒淅シ喜ク驚ス〈外ナレバ悪寒シ・内ナレバ善驚ス〉・留マリテ去ラ不レバ・輸ニ伝舎ス・輸ニ在ルノ時ハ・六経四肢ニ通ゼザレバ・則チ肢節痛ミ・腰脊乃強バル・留マリテ去ラ不レバ・伏衝ノ脈ニ伝舎ス・伏衝ニ在ルノ時ハ・体重ク身痛ス・留マリテ去ラ不レバ・腸胃ニ伝舎ス・腸胃ニ在ルノ時ハ・賁響シ腹脹ス・多寒

ナレバ腸鳴リ飧泄シ・食化セズ・多熱ナレバ溏シ出糜ス・留マリテ去ラ不レバ・腸胃ノ外募原ノ間ニ伝舎シ・留マリテ脈ニ著クス・稽留シテ去ラ不レバ・息スンデ積ト成ル……
邪気ノ淫泆ハ・論ニ勝ルコト可ナラザルナリ……
起居節セズ・用力ノ過度ナレバ・則チ絡脈傷ブラル・陽絡傷ブラレレバ則チ血外溢ス・血外ニ溢ルル則ハ衄血ス・陰絡傷ブラレレバ則チ血内ニ溢ル・血内溢スレバ則チ後ニ血アリ・腸胃ノ絡傷ブラレレバ・則チ血腸外に溢ル・腸外ニ寒エ有レバ・汁沫ト血相搏レバ・則チ并合凝聚シテ散ズルコトヲ得ズ・而テ積成ルナリ……)

「絡傷」「血溢」「汁沫迫聚」などと詳細に論じているのは有名です。また『霊枢』水脹第 57 では、腸のポリープ・潰瘍・胃癌を思わせる記述や、『素問』太陰陽明論第 29 には

「……食飲不節、起居不時者、陰受之……陰受之、則入五蔵……入五蔵、則膈満閉塞、下為飧泄、久為腸澼。……」

(……食飲節セズ、起居ノ時ナラザル者ハ、陰之ヲ受ク……陰之ヲ受クレバ、則チ五蔵ニ入ル、五蔵ニ入レバ、膈満シ閉塞シ、下ニハ飧泄ヲ為ス、久シケレバ腸澼ト為ル……)

という記述があります。『霊枢』水脹第 57 や『霊枢』脹論第 35 の記述と合わせると、疾病論として重臺なものと思われます。

『難経』５０難に

「……従後来者為虚邪・従前来者為実邪・従所不勝来者為賊邪・従所勝来者為微邪・自病者為正邪。何以言之・仮令心病．中風得之為虚邪・傷暑得之為正邪・飲食労倦得之為実邪・傷寒得之為微邪・中湿得之為賊邪……」

(……後従リ来ル者ハ虚邪ト為シ・前従リ来ル者ハ実邪ト為シ・勝不ル所従リ来ル者ハ賊邪ト為シ・勝所従リ来ル者ハ微邪ト為シ・自病ム者ハ正邪ト為ス・何以ッテ之ヲ言ヤ・仮令バ心ノ病・中風ニ之ヲ得タルヲ虚邪ト為シ・傷暑ニ之ヲ得タルヲ正邪ト為シ・傷寒ニ之ヲ得タルヲ微邪ト為シ・中湿ニ之ヲ得タルヲ賊邪ト為ス……)

のように記述している。「正邪・虚邪・実邪・賊邪・微邪」等という五邪概念と、「七伝・間臓」概念、および『難経』１３難の記述や、『素問』蔵気法時論第 22 の

「……夫邪気之客于身也・以勝相加・至其所生而愈・至其所不勝而甚・至於所生而持・自得其位而起・必先定五蔵之脈・乃可言間甚之時・死生之期也……」

(……夫レ邪気ノ身ニ客スルヤ勝ツヲ以ッテ相加ワリ・其ノ生ズル所ニ至リテ愈エ・其ノ不勝所ニ至リテ甚シク・其ノ生ズル所ニ至リテ持シ・自其ノ位ヲ得テ起ツ・必ズ先ニ五蔵ノ脈ヲ定メテ・乃チ間甚ノ時死生ノ時ヲ言フ可シ……)

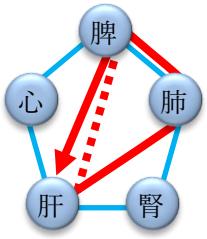
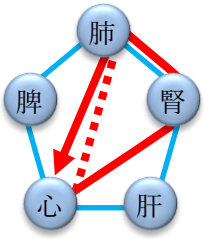
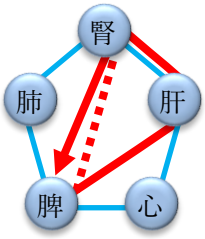
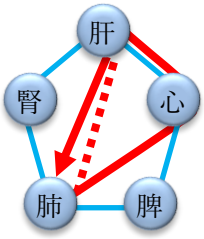
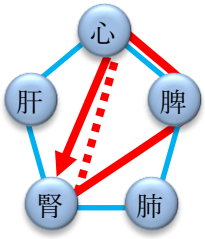
や『素問』玉機真蔵論第 19 の

「……五蔵受気于其所生・伝之于其所勝・気舎于其所生・死于其所不勝・病之且死・必先伝行至其所不勝・病乃死……」

（……五蔵ハ気ヲ其ノ生ズル所ヨリ受ケ・之ヲ其ノ勝ツ所ニ伝エ・気ハ其ノ生ズル所ニ舍リ・其ノ勝タ不ル所ニ死ス・病ノ且（マサ）ニ死セントスルヤ・必ズ先（マ）ズ伝エ行キテ其ノ勝タ不ル所ニ至リテ病乃（スナワチ）死ス……）

に記述されている病の伝変に関する法則的なものの記述等々に関する知識と、治療論的に見た経絡経穴論、病態と鍼種、鍼法の関連についての知識などをフルに駆使した上、別紙の表から「積」の鍼灸治療を組み立てて、それを説明してください。

積聚病機一覧表

『難経』５６難

積　名	肥気	伏梁	痞気	息賁	賁豚
季　節	季夏	秋	冬	春	夏
日　時	戊己日	庚申日	壬癸日	甲乙日	丙丁日
旺気蔵	脾	肺	腎	肝	心
受邪蔵	肺	腎	肝	心	脾
病　蔵	肝	心	脾	肺	腎
病　邪	肺受土邪	腎受金邪	肝受水邪	心受木邪	脾受火邪
『難経』	飲食労倦	傷寒	中湿	中風	傷暑
『内経』	湿	燥	寒	風	熱
積　状	左脇下・如覆杯有頭足	起臍上・大如臂上至心下	在胃脘・覆大如盤	右脇下・覆大如杯	發於少腹・上至心下・若豚状・或上或下無時
病　候	發欬逆・瘖瘧	病煩心	四肢不收・發黄疸・飲食不為肌膚	洒淅寒熱・喘欬發肺壅	喘逆・骨痿少気
発症構造